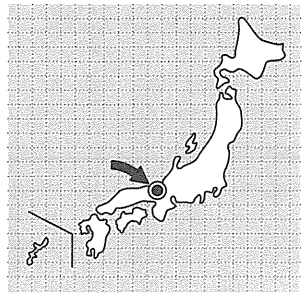
シリーズ
子どもが育つ場所から

人と共に生きる心を育む

京都市立中京（なかぎょう）もえぎ幼稚園（京都府京都市中京区）

京都市中京区は昔からの三世代同居家庭がありつつ、核家族の転入が増加している地域。子どもの心に向き合おうとする保育者の熱い思いが、現代の保護者と共に歩む中京もえぎ幼稚園の保育を創っています。

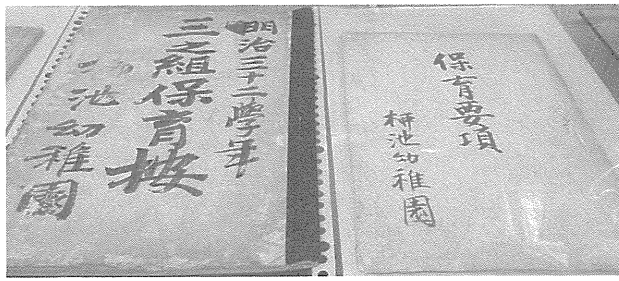


今号のレポーター

古賀松香

京都教育大学准教授。現場で子どもたちの姿を見ながら、保育者と共に保育を考え合うのが面白い！　そこから保育者の専門性を描きたいと奮闘中です。

中京もえぎ幼稚園は、京都市の中心に位置する、中京区唯一の公立幼稚園です。六つの園を十年ほどかけて統合し、十六年前に中京もえぎ幼稚園として開園。統合前の幼稚園の一つ、柳池幼稚園は、明治八年開設の日本最初期の幼児施設「柳池校附設幼稺（稚）遊戯場」に端を発しています。東京女子師範学校附属幼稚園の開園が明治九年ですから、それより一年早い開設です。このことを村山[注1]（1960）は「きわめて長いあいだにつちかわれた都びとの底力と文化的な教養が教育熱ということにあらわれ、そのあらわれの一端が幼稺遊戯場である」と述べ、その重要な意義を指摘しています。政府ではなく民衆の力によってわが国最初の小学校である柳池校とその附設幼稺遊戯場がつくられたことに、改めて京都市民の持つ地域の組織力、教育力を知る思いがします。



▲資料室にある明治期の史料

カレーパーティー

さて、訪問したこの日はカレーパーティーが開かれていました。幼稚園から出掛けていく畑「ほしファーム」で、五歳児たちが玉ネギ六十四個、ジャガイモ三百六十一個も収穫！　それを今日はみんなで調理します。

三歳児は「どこまでむくのかな？」と玉ネギの皮むき。四歳児は「何かにおいがする」と、土の付いたジャガイモを洗います。五歳児は、三・四歳児がきれいに下準備した野菜

保育者やママ先生と
一緒に（3歳）▶

◀ママ先生と
手元に集中！（5歳）

▲いただきます

▲友達と一緒に（4歳）

▲おおきいぐみさん、すごいな～

を包丁で切っていきます。

エプロンと三角巾をつけて調理する「おおきいぐみさん」を、三歳児たちが興味津々で窓に張り付いて見ていました。

保護者と共に

この園に行くと、いつもどこかで保護者の方が行事の話し合い等をしています。この日は全クラスの各調理グループにお母さんが一人ずつ入り、子どもたちのサポート。保護者が保育に参加する「パパママ・ティーチャー」など、普段から積極的な保護者参加が多くあります。今日も自分の子を追いかけて写真を撮る人は皆無。園の子どもたちに目配り気配りをし、子どもたちが自分の手元に集中できる環境づくりを楽しそうにされていました。

「折り合う」心の研究

中京もえぎ幼稚園は研究モデル園としての役割も積極的に担い、昨年度までの二年間、「幼児が自己を発揮しながら人と折り合いをつけ、気持ちを調整する力が育つための教師の援助や環境のあり方を考える」という少々長いタイトルの研究に取り組みました。私はその研究に〝ちゃちゃを入れる〟楽しい役割を与えられ、時々遊びに行っては、保育後の振り返りに参加させてもらっていました。

私が初めて園を訪問したのは二年前の六月五日。もう六月だというのに、担任の半径一メートル以内でこわばった表情のまま何もできずにいる青白い三歳児、特にやりたいふうでもないのに砂場で泥団子を作り続ける四歳児、折り合うどころか激しく他者とぶつかり合うことでやっと自己を感じているような五歳児、と気になる姿を挙げればキリがありません。この子たちが「自己を発揮する」「折り合いをつける」「気持ちを調整する」……何て難しいテーマだろうと思いましたが、だからこそ取り組む意味が大きく感じられたのでした。

人との間で折り合うとは、お互いの自己がしっかりと育っていなければ不可能なことです。私が衝撃を受けた子どもたちは「しっかりと自分のやりたいことがあり、自分の主張をしながら他者と出会っている姿」とは程遠く、まず子どもの自己を育てないと「折り合う」と言っても空虚だと、やっと進み始めた研究にちゃちゃを入れました。そこから保育者は、何が子どもの中で育っているのか、どのような関係が育っているのかをしっかりと見とり、丁寧に育ちを描くことを続け、骨太のエピソードが並ぶようになりました。そして、子どもの心をとらえようとする保育者のまなざしが支えとなり、子どもたちは「こん

なことがしたい」「こんな物が作りたい」と遊びの中で自分の思いを持ち、表現し、伝え合い、ぶつかっても乗り越えようとするようになっていきました。

▲パネルシアター、一緒に作ろう！

その研究紀要に「『折り合い』には、常に幼児自身が、葛藤の場面で、自分はどのようにしたいのかと自問自答し、自分自身と向き合うことが必要になることが分かった」[注2]とあります。今回の訪問日にも、子どもが自分に向き合うことができるよう、しっかりと支える保育者の姿がありました。

「たけうまにのれますように」

カレーパーティーの日、年長組に行くと、「たけうまにのれますように」と書かれた七夕の短冊がありました。二年前、担任の半径一メートル以内で青白い顔をしていたトオルの短冊です。

入園当初は家庭でも園でもトイレに行ったことがなく、担任がトイレの方に行ったと思うと近寄れなくなり泣いてしまうといったふうで、排泄の自立も精神面での自立もしっかり援助する必要がありました。「今、トオルがとらわれている不安は何だろう」と思いを寄せて抱きとめ、「大丈夫だよ」と何とか安心できるように支える日々。トイレ横の手洗い場で保育者とうがいをしたり、母親と一緒にトイレに入ってもらったりと、時間をかけて安心できる範囲を広げ、大好きな担任にはニコッと笑うようになっていきました。

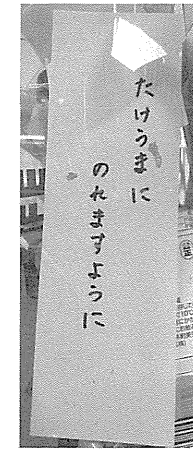
四歳児の頃は友達のハルヤといつも一緒。担任は大好きな友達と安心して遊ぶ姿ととら

え、支えました。五歳になり、リュウ、ハルヤと戦いごっこを毎日続けていたトオル。担任は次第に「トオルがやりたいことは何なのか」と引っ掛かるようになります。そんなある日、祇園祭ごっこの中にリュウとトオルが入って遊んでいました。担任は、今日は戦いごっこじゃない！　と心に留めて保育をしていました。昼食後、トオルが自分から祇園祭ごっこに入っていくのを見ていた担任が後から様子を見に行くと、トオルはいません。周りの子に聞くと、「リュウがやめるぞと言ったからやめていった」とのこと。担任はトオルを見つけて呼びとめ、「トオル君は何がしたいの？　リュウくんがやめるって言っても、トオル君がしたいことをしたらいいんだよ」と伝えます。でも、トオルは言われたくないことを言われているといった感じ。気になった担任は、お迎えに来たお母さんに、今日あったこと、トオルに伝えたことを話しました。

数日後の日曜参観にはお父さんが参加し、竹馬作り。その次の日の朝、驚いたことにお父さんから電話が！　先日担任がお母さんに話した内容を、お父さんも伝え聞いていたようです。そして日曜日に、友達について行くばかりのわが子の姿を見て、「自立した姿になってほしい」と思ったとのこと。電話で、「トオルに『自分で考えて、自分の本当にやりたいことをやりなさい』と話したので、今日はそんな気持ちで登園します。受けとめてやってください」と言われたそうです。その日、園の保育者全員がトオルに気持ちを向けて保育にあたりました。

朝、登園してきたトオルは誰に言われるでもなく、竹馬をやり始めました。通り過ぎる保育者は皆、トオルが自分で決めたことをやろうとしている姿に「自分で考えててすごい」と喜びを伝えます。

でも竹馬はそんなにすぐには乗れません。



▲自分に願う短冊

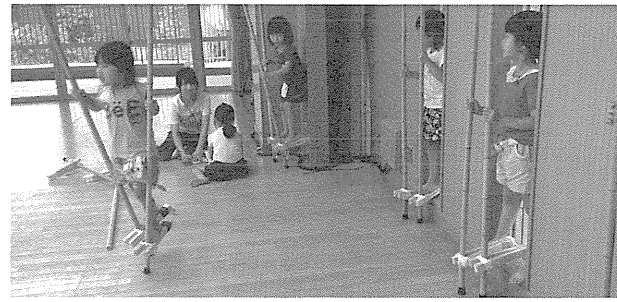
「たけうまにのれますように」は、トオルが初めて自分に願った思いだったのではないか。私は短冊を見て胸が熱くなりました。

竹馬を通して自分を知る

カレーパーティーの後も、トオルは竹馬を持ち出し、足を掛けました。乗れるようになっている他の子の様子をジッと見ています。

そこに教頭先生がタイミングよく通りかかりました。三歳の頃からずっと見守り続けて、やっと自分の足で立とうとしているトオルに心から喜んで声を掛けます。「持ってるから乗ってごらん」と教頭先生。足を乗せ、ぐっと体重を前にのせ、歩きだしました。

その後、トオルの大好きな担任も来て、竹馬を支えます。「あっちの端っこまで行く」と遊戯室横断をトオルが宣言すると、担任は笑顔で応えます。トオルは、必要なだけの支えで遊戯室の端まで行き切りました。ふう、と床に降りて座ったトオルの顔には、これまで見たことのない充実感があふれていました。


▲竹馬

大人全員が「この子の今」に向かう

私は、トオルがやりたいこと、本気で楽し

いと思うことは何だろう、とずっと引っ掛かり続けていました。でも保育者は、トオルが自分と向き合う力をつけるまでじっくりと待ち、その時が来たら全力で応援していったのでした。

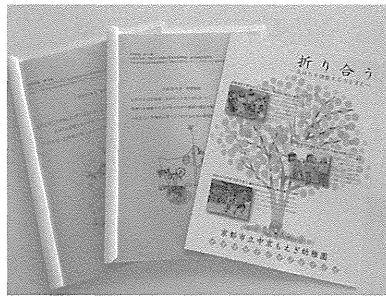
園内の全保育者だけでなく保護者も巻き込んで、皆がトオルの今を応援する。それは他のどの子の発達の危機の時も同じです。この子の今に熱い思いを持つ保育者が語るからこそ、保護者の心が動き、わが子をよく見るようになり、共に感じて動いてくれるようになる。そんなことが起こる、思いあふれる幼稚園。それが中京もえぎ幼稚園です。

▲竹馬楽しいね

引用文献

1　村山貞雄「わが国最初の幼稚園と京都の雰囲気」『幼児の教育』第五十九巻第九号　フレーベル館　一九六〇年　pp.56-57

2　「幼児が自己を発揮しながら人と折り合いをつけ、気持ちを調整する力が育つための教師の援助や環境のあり方を考える」もえぎ幼稚園研究紀要第10集　二〇一五年



— 訪問メモ —
訪問時期：2015年7月
訪問場所：京都市立中京もえぎ幼稚園
〔住所〕京都府京都市中京区間之町通
竹屋町下る楠町601-1
〔電話〕075-254-8441